

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人熊本大学

1 全体評価

熊本大学は、個性と強みを生かし、知の探求、創造、継承、連携、発信を行う「創造する森」として、基礎から応用までさまざまな課題の解決に果敢に「挑戦する炎」となり、世界の未来に貢献する"国際的な研究拠点を志向する地域起点型大学"を目指している。第3期中期目標期間においては、研究面では、世界レベルの研究の拡充・展開、教育面では、グローバルに活躍できるリーダー人材・イノベーション人材の育成、社会貢献では、大学のシンクタンク機能と生涯学習教育機能を強化すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学長裁量資源として教員ポストや予算を確保し、大学戦略会議の方針に基づく教育研究組織等の再編成や研究力強化、教育改革の優れた取組に学内資源を重点配分するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 「パルスパワーの深化と応用」においては、指定プロジェクトを継続的に実施した結果、CO<sub>2</sub>応答性金属錯体の合成、シート型電気化学システムの開発、液中パルスプラズマ法を用いたナノ粒子合成技術の開発等に成功している。研究における功績が認められ、学会から特別賞等を4件受賞している。また、国内の大学及び学術研究機関等に所属する研究者に特殊合成プロセス・評価設備を提供し共同研究活動を支援する「産業ナノマテリアル研究所共同研究一般公募」により、共同研究課題を23件採択している。さらに、産学連携活性化を目的とした「IINa産学連携交流会」、「産業ナノマテリアル研究所キックオフシンポジウム」を開催し、新たな展開に向け準備を進めている。（ユニット「自然科学系における研究機構・研究拠点の設置と組織改編による研究の戦略的推進と人材育成の強化」に関する取組）
- 学修成果を評価検証するための取組として、就職先アンケート（10月）、卒業・修了予定者アンケート（11月）、卒業・修了生アンケート（12月）を実施し、調査結果の中間報告を取りまとめ、令和3年3月のファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会の議を経て各部局に情報提供している。また、令和3年度における最終報告書の作成及び公表に向けた準備を行っている。教学IRデータの活用については、文学部からの希望に応じ、文学部グローバルリーダーコースを令和3年3月に卒業する学生について、入試から卒業までの成績等の分析資料（エビデンス）に基づく意見交換会を令和3年3月に実施している。（ユニット「入試改革と教育の質的転換を一体的に推進するための組織改革」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 学長裁量による資源の活用

学長がリーダーシップを発揮し大学改革を推進するため、学長裁量資源として、学長裁量ポストを25%、学長裁量経費を単年度で9億8,000万円以上を確保することとしており、令和2年度の学長裁量ポストについては、令和2年度末に25.4% (261ポスト)、学長裁量経費については、13億8,800万円を確保し、研究力強化等の優れた取組に学内資源を重点配分している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

---

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

---

①施設設備の整理・活用等 ②安全衛生管理 ③法令遵守

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 地域を志向した教育研究事業・社会貢献の推進

令和2年7月の豪雨災害で被災した人吉球磨地域の地場産業の再生に向けた球磨焼酎酒造組合との共同事業として、計17回の勉強会、現地活動を実施し、延べ82名の学生が参加している。また、熊本県、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）、球磨焼酎酒造組合と連携して地場産業のブランド強化の課題に取り組み、その活動報告として令和3年2月に地域向けの成果報告会を実施し、17名が参加している。また、特許庁地域ブランド総選挙でプレゼンテーションを行い、「優秀発掘賞」を受賞し、新聞やテレビでの取材を受けるなど、被災地域の地場産業の再生に貢献している。

### 附属病院関係

（教育・研究面）

#### ○ 教育の質を向上するための取組状況について

平成30年度文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択された「多職種連携の災害支援を担う高度医療人育成」の取組について、災害医療教育研究センターが中心となり、県内外から募集定員25名を上回る54名の応募があり、医師や歯科医師、看護師、薬剤師等の多職種を対象にe-learningを中心とした履修証明プログラムを実施し、リカレント教育に貢献している。

（診療面）

#### ○ リスク対応の質向上としての新型コロナウイルス感染症への対応について

重点医療機関としてMFICU 6床、協力医療機関としてNICU 1床、一般病棟（小児病床）2床をコロナ患者受入病床として確保したことに加え、熊本県調整本部の要請を受け、重症患者受入病床としてICU 3床を確保して、患者を受け入れることに加え、熊本市からの寄附により、新興感染症発生時において医学的・社会的な課題に実効的に対応できる専門医の育成等を行うことを目的とした寄附講座を設置して、令和2年12月にセミナーを開催するなど、新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる。

（運営面）

#### ○ リスク対応の質向上としての新型コロナウイルス感染症への対応について

「新型コロナウイルス対策本部」を設置し対応に当たるとともに、新型コロナウイルス感染症対策熊本県調整本部へ病院長等が参画することに加え、必要な人的支援として、熊本市市民病院へ医師17名、看護師24名、荒尾市民病院へ看護師7名、中等症患者の県宿泊施設へ看護師13名を派遣するとともに、災害派遣医療チーム（DMAT）対応として厚生労働省、長崎県対策調整本部、熊本県対策調整本部、介護保健老人施設等へ看護師7名、技師2名、医師2名を派遣している。